



愚仏と愚物

田 中 清

奈良の大仏や鎌倉の大仏は子供にとつても大人にとつても楽しい存在だ。その建立は時の為政者の権勢を誇示するためであつたであろうが、今日ではわが国のほほえましいアクセサリーの一つになつている。各地に旅行すると、いわゆる名所旧蹟なるものに案内される。心から感心し楽しめるものも少くはないが、時にはガツカリし、憤りさえ覚えるものも多い。東海道大船駅を見下ろす観音様、なんとクダランものを造つたものだと思つていたら、それに輪をかけて、高崎では鉄筋コンクリートの白衣観音とかを拝ませられてあきれてしまった。クダランといえば別府の大仏などその代表だと思つていたら、またまた京都は東山にまで、醜悪極りない大仏が現れた。東山の美しさのブチ壊しである。こんなつまらぬものを造る資金と材料があつたら、アパートでも建てた方がよほど功德があろう。そもそもコンクリートという材料は、強度的にそれ自体に矛盾をもつた愚劣な工業用材料であつて、早晚見離されるであろうが、比較的安価で大量に入手が容易であるという理由だけで使用されているものである。仏像のような一点一画の無駄をも許さない均整美の極致に対しては、コンクリートは最も不適當な材料であろう。コンクリートがその能力を発揮できるのは、あるいはダムぐらいのものかも知れない。それはそれとしてわが国三大愚仏として高崎の観音、別府と東山の大仏とを挙げたい。

× ×

各地を歩くともつともつと愚仏は沢山作られているようだ。われわれ上木屋として、自然美の保存と開発との調和ぐらい難しい問題はない。尾瀬沼の湿地植物は人類の天然記念物であり、その揚水発電所建設との関係もいづれに軍配を挙げるべきかは各人の感覚によつて異なる

ものがある。同じようなことが北山川の開発にも伴つている。富士山にケーブルカーを敷く計画もあるという。恐らく富士山の壮大さはチャチなケーブルカーなどは圧倒し去つて相手にもしないであろう。最近景勝の地がぞくぞくと国立公園の乱立に出会い、片つ端から風致が害われて行く。日光や箱根などは、低級な趣味の人々にくれてやることにして、奥入瀬の溪流美、八幡平の高原美、飯豊山の山丘美などは永久に子孫に伝えたいものである。私の好きだつた裏盤梯の松原・小野川・秋元も近頃では上高地と同じように、アロハとカリブソスタイルに荒らされているらしい。30年ほど前に、徳本峠を越えて初めて穂高を眺めた時の感激は今でも忘れることができない。

× ×

火山の多いわが国はまた美しい湖に恵まれていた。しかし十和田・洞爺・阿寒とつぎつぎに安負請のホテルやなんぞにスポイルされて、その天然美が害われてしまった。世の中にはつまらぬ智慧者がいるもので、摩周湖に紅鱒かなにかを養殖して、その湖の生命である世界的な透明度を失わしてしまつた。そして養魚の方も結局は失敗だつたらしい。わが国の景勝の地で見渡すかぎり人工物が一物も目に入つてこなかつたのは摩周湖ぐらいのもので、その点からも珍重していたのだつたが、たまたま今年6月に再び摩周湖を尋ね、湖畔に見晴し亭の建てられているのを見て失望と烈しい憤りを感じた。私はなにもひねくれた見方が好きなのではない。世界一を誇る登別の第一滝本や第二と称する霧島の林田の温泉も大好きだ。しかし熱海や飯坂や白浜は願ひ下げにしてほしいというだけなのだ。

× ×

私も学生の時に折角岸田先生から橋梁美学の講義を受けながら、すっかり忘れてしまい、今では全く自己流の観賞眼しか持ち合せがない。黒部の発電所の建物は峡谷美を考慮に入れて設計されたのだそうだが、どうひいき目に見ても黒部の峡谷美とマッチしているとはいえない。広島原爆記念堂あたりも何となく、心にピツタリ来ないが、あの橋の高欄の変テコな飾りに至つては、お世辞の申しようもない。こんなものになると各人各種の美的感覚で見方も違うのであろう。東京駅前のビルディング街なども、丸の内側はあれでまあよいとしても、八重洲口に至つては情なくなる。どう見ても植民地の新開地並だ。私は東京ツ子で東京をこよなく愛していた。しかし近頃は東京駅を降りたトタンに東京なんかつくづくいやだなあと思わずにはいられない。銀座は若い娘さん

の街だが、銀座を歩いていても、ふり返つて眺めるような、娘さんを見かけなくなつてしまつた。心齋橋は中年の御新造さんの街だが、反つてあきれいだと思わず立ち止るようなことがある。東京駅の話のついでだが、あんな化物は駅とは申せない。八重洲口は駅なのか勸工場なのか。どこで切符を売つているのか、うろうろさがし廻らねばならぬし、便所さえ見当らない不親切さだ。駅には駅としての本来の使命があるはずで、旅客を忘れては駅ではない。

× ×

無用の愚物に、通天閣なるものがまた一つ増えた。あの醜悪そのものともいうべき姿は大阪のオツチヨコチヨイの安つばぎのシンボルみたいで、恥しくて見るのもいやだ。よくまああんな下らん、みにくいものを高い設計料を出してたのんだものだ。戦前にも宮崎の八紘一宇の塔など、数々の愚物が作られたが、愚物の種は尽きないようだ。

逆に大切なものを焼いたり壊してしまつた例も多い。金閣寺や谷中の五重の塔など木造建造物が焼失することは、木材の性質上あるいはやむをえない運命であるかもしれないが、一時の気まぐれから火を放つには余りにも惜しい。すこし意味は違うが、私が惜しく残念に思つているものに耶馬溪の青の洞門がある。青の洞門は今から200余年前に僧禅海が掘つたと伝えられている。わが民族の大切な遺産であり、土木界としては貴重な記念物であつた。これが道路の拡張のため惜しげもなく取り壊されてしまい、今ではほんの僅かの部分が残存するに過ぎない。情ないことだ。これなど技術者としての教養を疑われても一言もない。青の洞門には一指をも触れずして見事な近代的道路を山国川に沿わせてこそ、技術の勝利があり、その苦心をしてこそ技術者としての真の喜びがあるのではなからうか。開発の名の下に、掛け替えのない貴重なわが民族の宝が惜しげもなく破壊されて行くのは余りにも悲しい。

× ×

人によつて見方、考え方の違う一例として大阪城を挙げよう、今日では大阪城は大阪見物の唯一の名所となり、その巨大な鉄筋コンクリートの天守閣を誇つている。しかし私には日本最大の愚物としか思えない。もしあの天守閣さえなかつたら、巨大な石垣に囲まれた空漠たる城趾に立つて、秀吉の雄図を偲び、豊臣のあわれな末路をいたむに、もつと感無量のものがあるに相違ないと惜しまれてならない。子供の頃に見た石垣ばかりの城趾がなつかしく思われてならない。今の大阪城が愚物たるゆえ

んを少しく説明しておきたい。私の聞きかじりで間違つているかもしれないが、秀吉が信長の命によつて本願寺石山城を攻めたが、どうしても落城せしめることができず、秀吉一流の策を用い妥協政策によつて本願寺派を高野に移した。信長は石山城こそ難攻不落の城であるといい、信長天下統一の暁には石山城に城を築かんものゝと期していた。その信長の夢を実現したのが秀吉の大阪城といわれている。秀吉は朝鮮攻めに財を傾け、信長の夢見ていたほどの大阪城は築きえなかつたようだ。秀吉の築いた大阪城は絵画も残つておらず、その規模もほとんど分つておらず、あるいは宏壮な城といい、あるいは古い石山城の跡を利用した程度だともいう。いずれにしても夏の陣の落城とともに、天守閣、櫓は焼きはらわれ、濠は埋められて、その姿を知る由もないという。その後徳川三代目の家光が堺商人の財力と豊臣残党との結合を恐れ、堺商人の財力を消耗せしめる目的をもつて大阪城再興を命じたという。豊臣の恩義を忘れぬ堺商人はその財力を傾けて、前にも勝る名城を築き上げ、濠を掘り石を遠くより運んだという。今の巨大な石垣の多くは堺商人の運んだもので、そのおり石に加藤清正や何かの名を刻んだともいう。この再興せられた名城も、僅か数年の後には落雷で焼失したことになっており、一説には目的を果した家光が火を放さしめて焼き払つたともいう。家光をして恐怖せしめた堺商人の財力も、徳川中期の大和川の附替工事の成功により、堺港が土砂で埋没するに及んで、無に帰したという。昭和6年大阪城復元に當つて、秀吉の大阪城を知る由もなく、家光時代の大阪城の絵図を下に復元を計つたが、むしろ観光目的に鉄筋コンクリート造としたまではよかつたが、予算不足から、家光の城を一割だけ小さく縮めてしまつたという。戦時中には防空上から持て余してブチ壊そうかという話まであつた。見物に来た子供の中には、あれが秀吉の築いたホン物の大阪城だと思ひ込んでいるものがある。人を迷わす無用の長物などないにこしたことはない。わが国三大愚物として第一位は大阪城、第二は東京駅として、第三は何にしようか、余りにも多いので選択に迷つてしまう。

× ×

人間の愚物に至つては、ここに挙げるまでもなくゴロゴロしているが、毎日毎日ラジオやテレビでその愚物ぶりを発揮してくれ、後を絶たない種族は、第一に政治家、第二に財界人、第三に大学教授、ことに内職に評論をやる手合には鼻持ちならないものがある。こんな雑文を書かされるのも愚物たるゆえんか。

—筆者は阪大工学部教授—